

「訪問看護」チラシの活用ポイント

チラシを説明する上でのポイント

訪問看護連絡会では、病態の悪化やADLの低下などが起きる前段階のできる限り早い時期での介入開始を行うことで、在宅生活の維持を目指していくことが重要と考えています。事例は、現在訪問を行う中でよくみられるような場面や、よくご依頼いただくようなものをあげています。

看護師の介入場面では、糖尿病や高血圧など大切な薬を内服している方も多くいらっしゃいますが、独居などで管理が困難だったり、認知機能が低下している方でも自己管理している方がいらっしゃいます。

また、便秘や少しの痛みが症状として出ているにも関わらず、仕方ないと思って生活を続けている方もいらっしゃいます。そのような方に対しても、看護師が飲み忘れがないような内服薬の管理の方法を検討したり、生活習慣から症状を少しでも緩和できるような適切なアドバイスをを行い、より安定した生活を支援していけるような内容を上げさせていただきました。

リハビリスタッフの介入場面では、入浴動作に不安がある方や介助が必要な方も多くいらっしゃいますので、当然筋力の向上や安定性に向けた介入も行いますが、より在宅の場面に即した具体的な方法で動作練習などを行い、不安定なく動作が行えるように支援していくような内容を上げさせていただきました。

裏面の訪問看護の特徴としては、様々な職種のなかでもより医療的な立場からアドバイスを行うことができることがあると思いますが、特に主治医との連携や緊急時の対応については、全国的にも一般の利用者から求められている部分であるというアンケート結果もでています。そのような点からも、ご家族含めた在宅生活のアドバイスなども含めた多くの場面でご利用いただけるのではないかと考えます。

はじめに申し上げた通り、看護師の介入までまだ必要ないかなとか、リハビリに頼む必要までないかな…というように思うような利用者様でも、アドバイス等も含めた早期の介入を行うことで、よりよい在宅生活を支援できると考えています。状態が悪化してからだと提案できる生活の幅が制限されることもあり、できる限り早期に介入開始できますよう、このチラシを使用し利用者様へご説明頂き、ご提案いただければと思いますので、宜しく願いいたします。